

平成２２年度 市民環境調査

川越の樹めぐり



平成２２年１０月
川越市

目 次

市民環境調査実施報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

川越の樹めぐりの様子・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

川越の樹めぐりアンケート結果・・・・・・・・・・・・ 6

配布資料

市民環境調査「川越の樹めぐり」実施報告

1 目的

- 市内の巨樹・古木・名木を調査し、長い時代を生きてきた樹木の偉大さを感じ、あわせて緑の大切さを学ぶ。
- 身近な樹木に関心を持ち、併せて緑の保全に対する意識を高める。
- 冊子「川越の巨樹・古木・名木めぐり」の商業シャルを行う。

2 調査日

○平成22年10月28日（木）9：00～16：00

3 方法

- 冊子「川越の巨樹・古木・名木めぐり」を参考に実施。
- 冊子内の樹木から数本をピックアップし、バスでめぐり、観察を行う。
- 幹周りの測定を行いデータ収集するとともに、参加者に正しい測定方法を学習してもらう。

4 当日の行程

8：45 川越駅西口暫定自由広場集合、出発
9：30 調査開始
①尾崎神社のスギ・ヒノキ
②山畑家のケヤキ
③鯨井のヒイラギ
④下小坂の大ケヤキ（幹周りの測定を実施）
12：00 昼食・休憩
13：50 ⑤菅原神社のモミ
⑥明見院のシダレサクラ
⑦奥貫家長屋門脇のクス
⑧並木の大クス
東部地域ふれあいセンターを案内
バス内にて総括、アンケート記入
16：00 解散

5 講師

○川越巨樹・古木の会 会長 金子 晃 氏
会員 皆川 和千 氏
渡利 正 氏
宮本 賢二 氏

6 参加者

- 広報川越 9 月 2 5 日号及び川越市ホームページで募集
- 対象は市民 2 8 名の参加

7 スケジュール

- 応募（1 0 月 1 日（金）から受付）
↓
- 調査（1 0 月 2 8 日（木）実施）
↓
- 報告書作成（1 1 月）



尾崎神社のスギ・ヒノキ①



尾崎神社のスギ・ヒノキ②



尾崎神社のスギ・ヒノキ③



山畑家のケヤキ①



山畑家のケヤキ②



山畑家のケヤキ③



鯨井のヒイラギ①



鯨井のヒイラギ②



下小坂の大ケヤキ①



下小坂の大ケヤキ②



下小坂の大ケヤキ③



下小坂の大ケヤキ④



菅原神社のモミ



明見院のシダレサクラ



奥貫家長屋門脇のクス①



奥貫家長屋門脇のクス②



並木の大クス①



並木の大クス②

市民環境調査「川越の樹めぐり」アンケート結果

参加者 28 名内アンケート回収 28 名

1 何を見て（だれから聞いて）参加してくれましたか？

- ①広報・・・27名
- ②川越市のホームページ・・・0名
- ③その他・・・1名（友達に誘われて）

2 今回の調査の内容は理解できましたか？

- ①よく理解できた・・・26名
 - ・木にまつわる他の話があったから
 - ・実際に木を見られたので良かった、雨で残念だった
- ②よくわからなかった・・・2名

3 今回の調査に参加して、どうでしたか？

- ①楽しかった・・・26名
 - ・神社、先生、木、人に会えて
 - ・楽しみながら樹木の新知識を得た事
 - ・木の生命力の強さにパワーを貰った
 - ・本を見て5年かけてまわった、説明を聞いた事がなかったのでよくわかった
 - ・川越にも沢山の巨樹が有ることが理解できた
 - ・樹と人の歴史を合わせて聞けて楽しかった
 - ・自分一人ではなかなか回れない
 - ・巨木にふれられたから
 - ・これからは気にしながら道路を通りたいと思った
 - ・解説がすばらしかった
 - ・説明してくれた方が博学でいろいろと教えてもらった
 - ・木の測り方など実施できたから
 - ・何気なくみていた樹木に興味をもてたので
 - ・木の説明が良かったが雨で寒かったので、バスの中での説明でもよかった
- ②楽しくなかった・・・2名
 - ・寒すぎたから
 - ・説明が長かった

4 今後、行われる緑の保全活動や調査に参加してみたいですか？

- ①参加してみたい・・・24名
 - ・木を大切に见守り、保護することがどんなに大切か知らされた
 - ・環境良化の一助になれば有難い
 - ・自然とはどんなに大切かこれからの人生で勉強する力に利用したい
 - ・木や山がすき
 - ・視野をひろげたい
 - ・まだ知らない所が沢山ある

- ・大変おもしろかったので

②参加したくない・・・3名

- ・つまらなかった
- ・一度いけばそれでよい
- ・年齢的に無理

5 次は、どんなことをしたいですか？

- ・森林の整備手伝い
- ・小動物を見つけに出掛けたい
- ・市民の森に行ってみたい
- ・外来種（花や魚）のはびこり
- ・自然観察
- ・ウォーキング
- ・湧水めぐり
- ・施設めぐり
- ・今回見られなかった樹めぐり

6 自由に意見を書いてください。

- ・山畑家の家主が実に楽しくよく説明してくれて感激した
- ・講師の話題が豊富でずっと聞いていたかった
- ・福原のしだれ桜とモミの木は残念、川越の財産だと思うので大事にしてほしい
- ・冊子が古い
- ・以前に冊子「かわごえの巨樹・古木・名木めぐり」を購入したが見て回れずにいた、今回参加できて嬉しかった

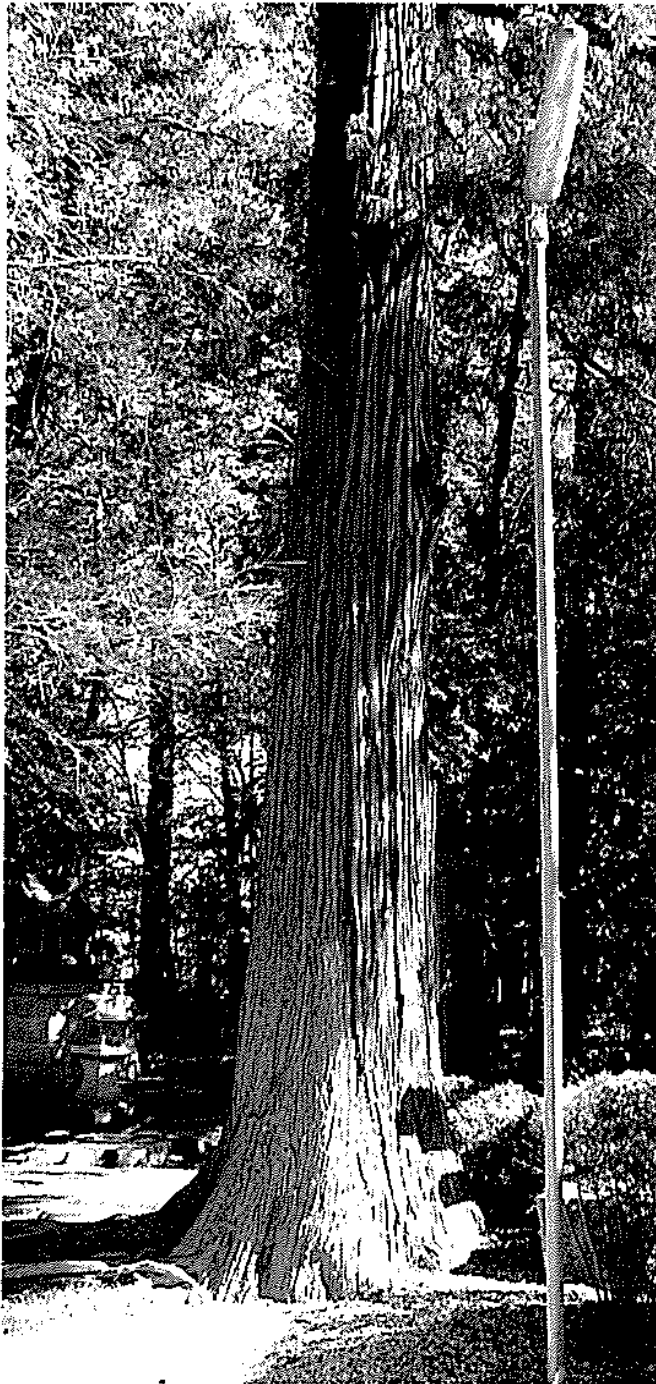
平成 2 2 年度

市民環境調査
川越の樹めぐり

配 布 資 料

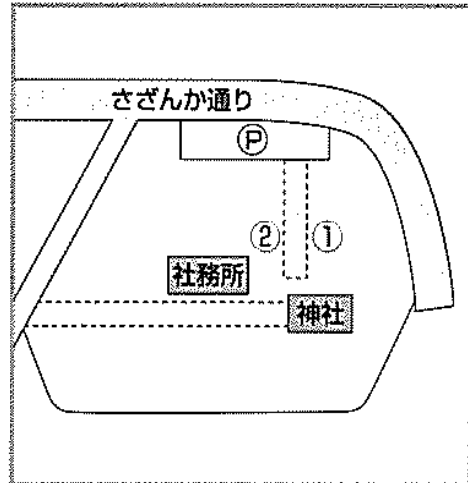
④尾崎神社のスギとヒノキ <県指定ふるさとの森>

境内はスギとヒノキがうっそうとしており、川越では最大の社叢^{しゃそう}となっている。神社正面の参道^{さんどう}を歩くと、古くから続く社を訪ねた森閑さに包まれる。スギとヒノキが対に立ち、高さを競っている。静けさを求め、古木と対面出来る格好の社叢^{しゃそう}である。



①スギ

幹周り 299cm



②ヒノキ

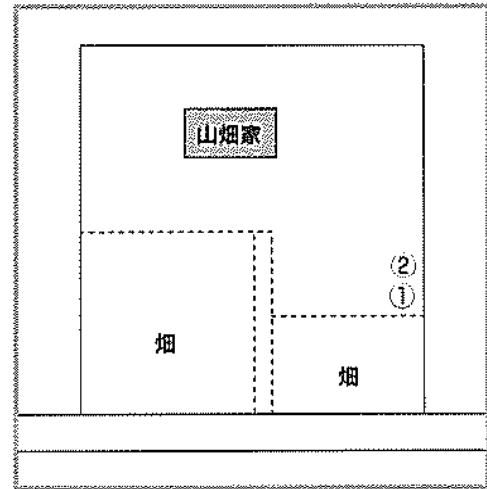
幹周り 300cm

笠幡駅へ 1900m(24分)



②山畑家のケヤキ

道沿いに栗林が残る丘陵に白壁の建物が見え、近くに直立したケヤキが2本並んでいる。昔は、山林の境木として多くのケヤキが立ち並んでいたが、開墾された畑に落とす影で、作物に日当たりが悪くなるので伐採された。樹の根元に立つには家人の了承を得る必要がある。葉が落ちた冬枯れの姿は遠くの道からでも見られ、野に立つケヤキは絵になる姿である。



根元



ケヤキ

幹周り ①331cm ②295cm

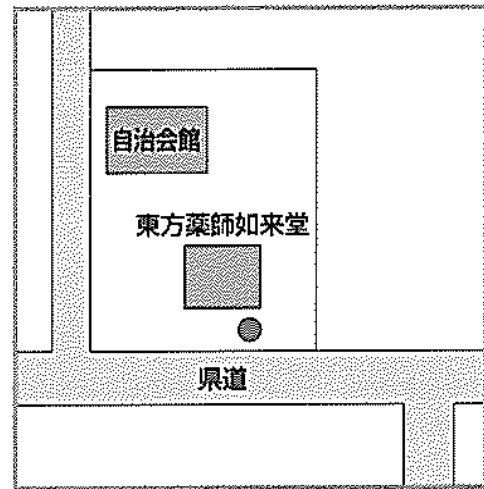
神田家へ 950m(12分)



③ 鯨井のヒイラギ

<市指定天然記念物>

東方薬師如来堂の境内にあるこのヒイラギは、県道の拡幅工事のために移植されている幹は板状となってしまうが、旺盛な艶のある新芽を出している古木。このヒイラギひとつでこの地の古き歴史がうかがえる、11月末頃に咲く白い花は、香りを四方に漂わせている。



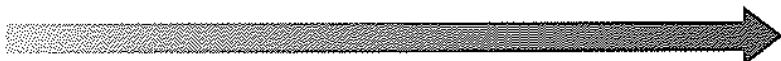
根元



ヒイラギ

幹周り 235cm

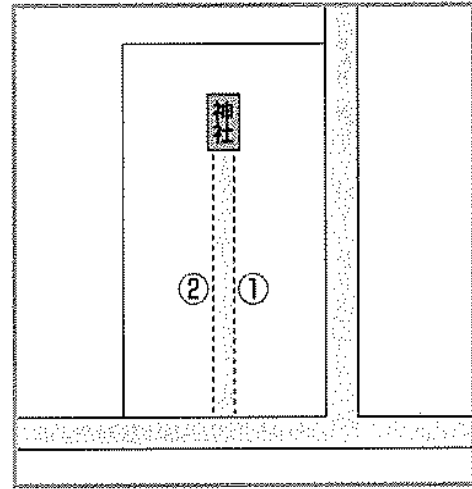
日枝神社へ 600m(8分)



①下小坂の大ケヤキ

<市指定天然記念物>

下小坂白鬚神社の境内にあり、埼玉のケヤキコンクールで一位となった巨樹。2本が間近に並び立つ姿は、大空に向かってVサインを送っているようだ。社殿に向かって、右側はアカケヤキ、左側はアオケヤキ。根元に立つと幹の重量感に圧倒される。



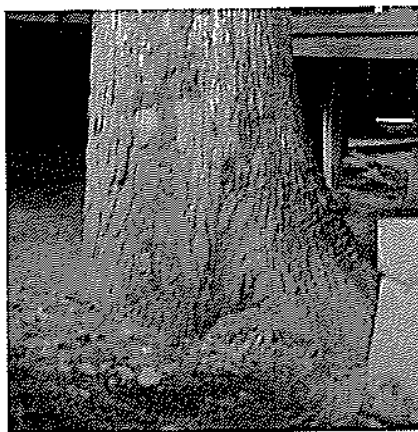
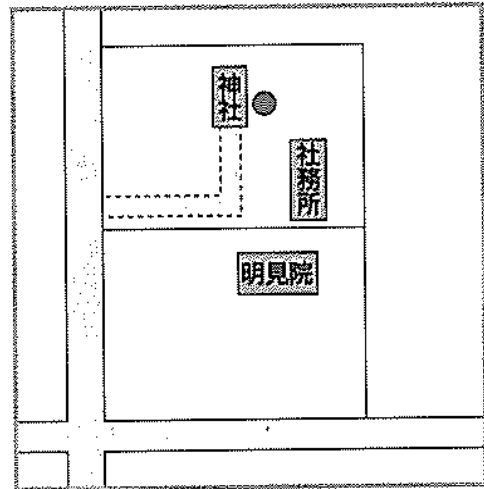
ケヤキ 幹周り ①632cm ②634cm

③菅原神社（今福）のモミ

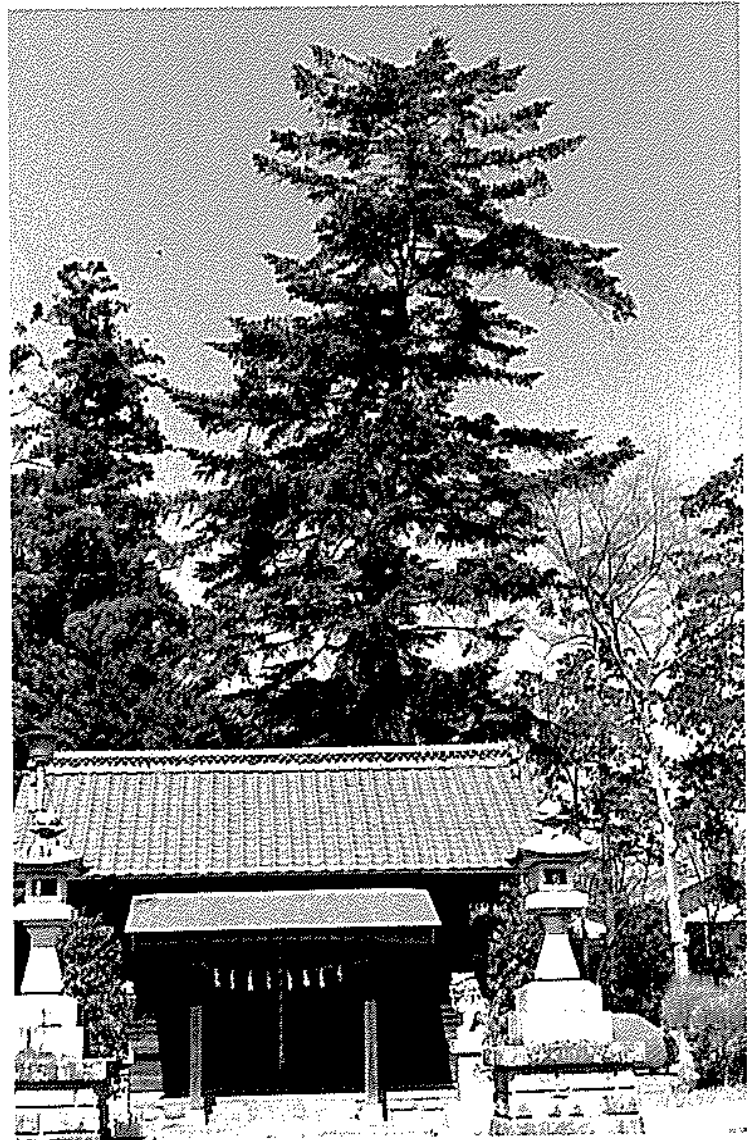
今福地区を開墾した村人の神社。明治の中頃までは、明見院と同一の境内であったと思われる。モミは、本殿玉垣の中にあり根元には近づけない。

ここの地形は、新河岸街道より高くなった台地で、雑木林が続く中にある。

一段と天高く伸びている樹形が遠くから見られる。



根元

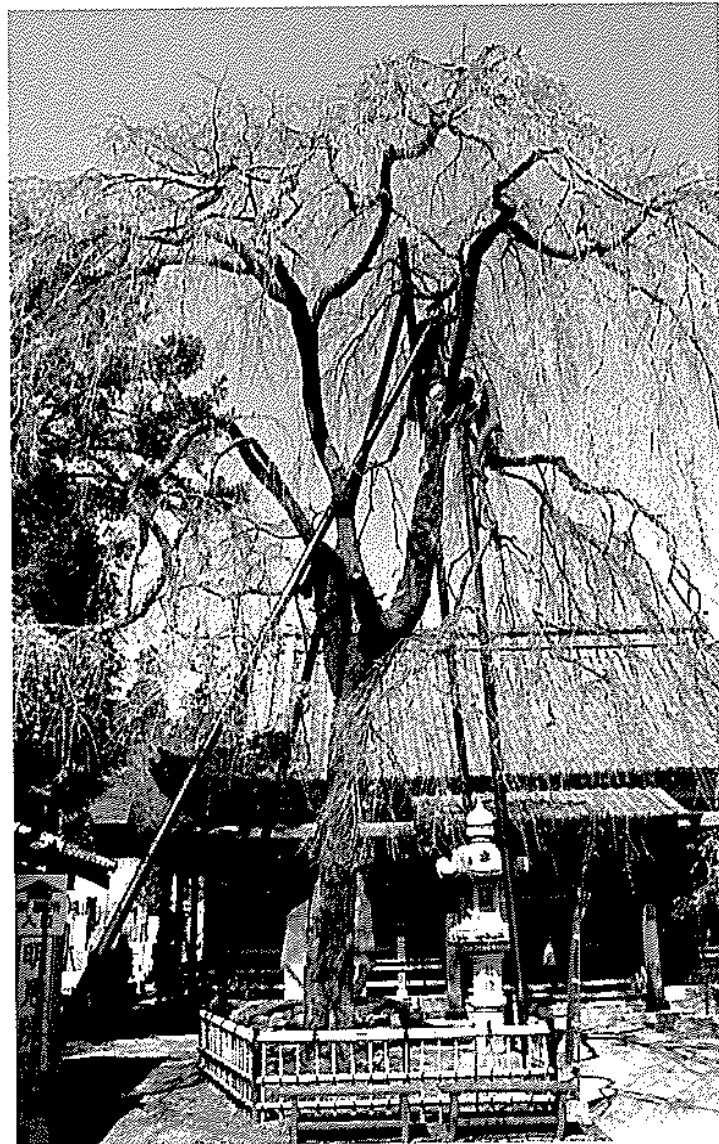
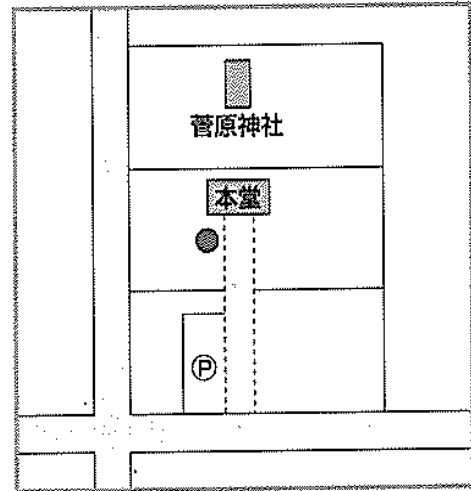


モミ

幹周り 236cm

④明見院（今福）のシダレザクラ

このシダレザクラの親樹は、中院のシダレザクラであり、植樹年が安永8年（1779年）本堂落慶の記念樹と記録にある。このため、川越のシダレザクラ樹齢推測の基準木になる。花時は、夜間照明され、静かで見事な花見が出来る。

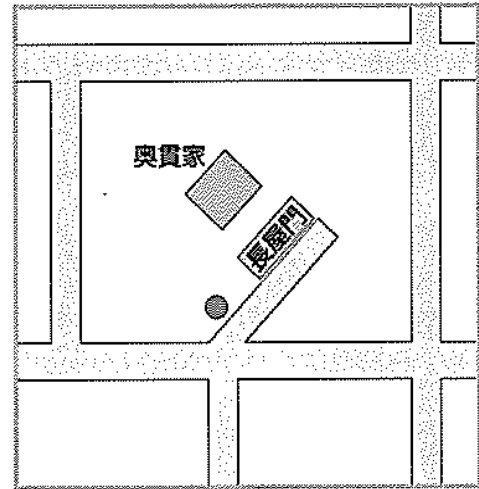


シダレザクラ

幹周り 210cm

⑥奥貫家長屋門脇のクスノキ

久下戸の奥貫家の長屋門は、川越市の指定文化財になっており有名。この長屋門の左脇にこんもりとしたクスノキがある。四方に枝を伸ばした巨樹。幹の根元は笹で見えにくいが、陽を存分に浴びた葉先は艶のある緑を見せている。5月の葉がわりに出る新芽は、赤味を帯びて美しい。



クスノキ

幹周り 330cm

根元

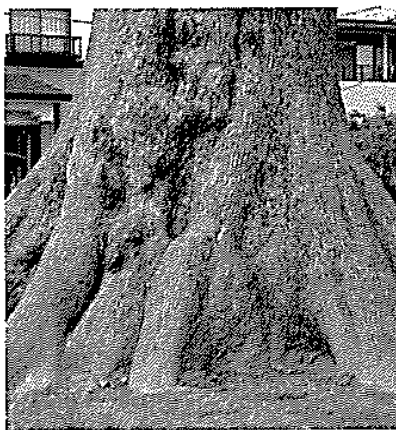
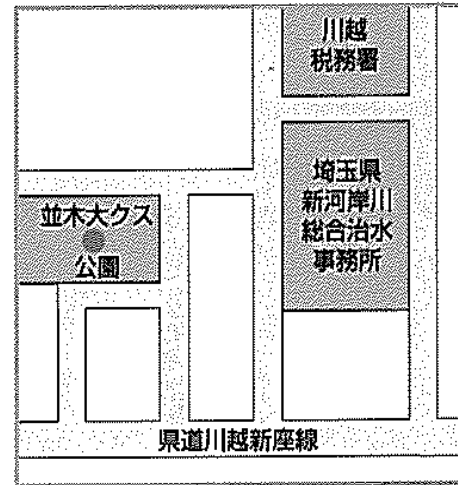
並木の大クスへ 1300m(17分)



⑦並木の大クス

<県指定天然記念物>

川越では最大のクスノキであり、住宅建設で伐採の対象となったが、保存運動により公園の樹木として保存され、市所有となった巨樹。根元を保護するため、クスノキの枝先の範囲まで、路面より高くした石垣で囲っている。根張りを四方に伸ばし、太い幹を支えている姿は、驚きの目で樹上まで視線を上げてしまう巨樹である。



根元



クスノキ

幹周り 679cm

氷川神社へ 300m(4分)



樹木の役割

1. 木陰を作る
2. 景観を良くする
若芽・花・実で
3. 森林浴・ストレス解消
健康維持に役立つ
木洩れ日・葉音・香り
4. 家屋建材・家具材になる
5. 燃料になる 薪・炭・灰
6. 光合成で、酸素を作る
7. 一酸化炭素を吸着する
8. 水を蒸発し
気温を下げる
9. 根が土止めになる
傾斜地・山間地
10. 保水と浄化の役目をしている
11. 虫の住みかになり
虫が鳥の餌になる
12. 小鳥の巣作り
繁殖の場になる
13. 実が食物になる
14. 枯れ葉が肥料になり
土壌作りになる
良い野菜作りが出来る

木の音 (鼓動)

～聴音器で聴く～

1. 水上昇音 樹高 7～8mの木で、一日に20リットル 位
水の吸い上げは、時速 50cm位である
2. ゴッー・ザアーの音 風で樹・枝が動く音
大地の振動音が伝わる音
3. 虫が樹を食べている音

(18年「ふるさと塾」7/26 文 金子)

1. 基本

1 調査の対象

「調査木」は、地上から130cmの高さで、幹・周囲が300cm以上の木です。これらが育成している並木・樹林も対象になります。



図-2 (複雑な形状の幹周りの例)

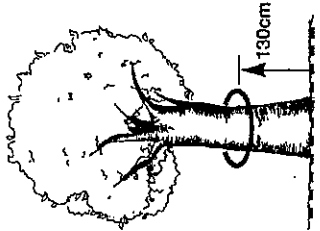


図-1 (平地の例)

2 測り方

幹周は地上から130cmの高さを、センチメートル単位で測ります。メジャーを幹に当てて、凹凸のあるところは手の平で押さえ、一周させます。手の平よりも小さい溝やへこみは無視します。ウロ(樹洞)があったなら、その大きさを奥行きにかかわらず、図-2のようにメジャーをピンと張って、これを幹周とします。斜面に生えている木は、山側(高い方)で地上(根元)から130cmの高さで測ります。斜面が急で谷側(低い方)に降りられないときは、山側から測量ポールで直径を測り、幹周を計算します。

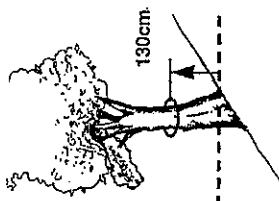


図-3 (斜面の例)

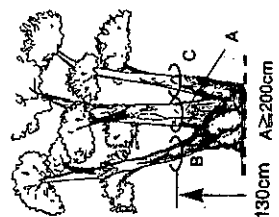


図-4 (株立ちの例)

3 株立ち

130cmの高さで幹が複数に分かれていたら、次の条件を満たしている木が調査木です。
 ・一番太い幹(主幹)の幹周が200cm以上ある。
 ・それぞれの幹の幹周の合計値が300cm以上ある。
 このとき幹周は複数の幹の合計値になります。主幹の大きさ、株立本数も記録します。

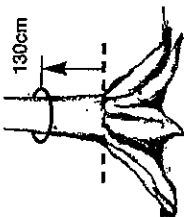


図-5 (根上り例)

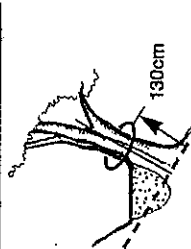
4 根上り

根が地面から上に上がっているときは、露出している根の根元から測ります。

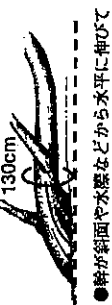
2. 美しい樹の測り方

基本の方法では測りにくい木はたくさんあります。ここでは代表的なものをあげました。必ず調査票にスケッチや写真を添えてどこを測ったか分かるように記録を残しておいて下さい。

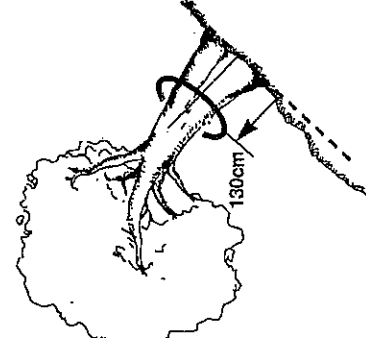
基本の測り方で計測位置が決められない木
 次のような木の生え方の場合は、幹の軸線(中心)を想定し、地表面に接したところから、幹の形状に沿って130cmのところまで幹周り(軸線に対して垂直面)を測ります。



● 傾斜地に立ち、山側の地上に腐葉土、土砂などが堆積している木

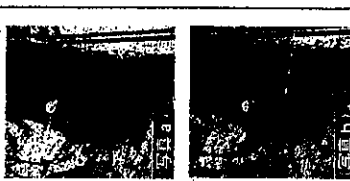


● 幹が斜面や水際などから水平に伸びている木
 ● 幹が斜面や水際などから下ってから立ち上っている木

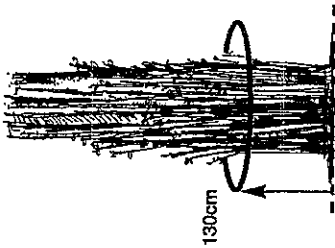
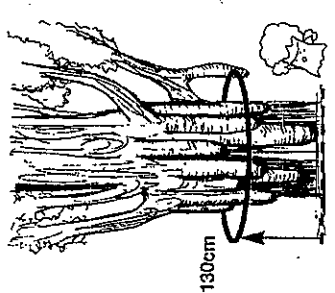


軸線の決め方

- 1 計測者は調査木の左右どちらかの横に立ちます。地表面の自然な傾斜と測量ポールを平行におき、木の根周りに接する地点を探します。
- 2 1の地点から幹の中心を想定し、チョークなどでマーキングします。
- 3 マーキングした位置から幹の形状に沿って130cmのところまでマーキングします。この2点をつないだ線が軸線です。(写真a)
- 4 軸線に対して垂直になるように計測位置を決め幹周りを測ります。(写真b)



主幹がわかりにくい木
 カツラは主幹が確認できない場合がありますが、地上から130cmの高さでメジャーを一巡し測ります。アコウやイチョウなど、気根が垂れ下がり幹と合体しているときは、130cmの高さで気根を含めて測ります。このとき幹から離れている気根は除きます。

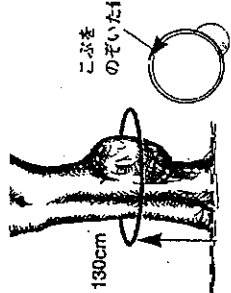


板根の発達している木

130cmの高さに板根があるときは、その上部で板根が終わった高さを計測位置とします。位置の記録を忘れないで下さい。

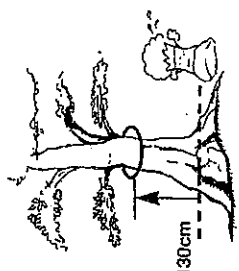
こぶの発達している木

異常な「こぶ」は、除いた計画値を出します。参考までに「こぶ」周りの計測値も記録してきます。



岩盤にまたがっている木

岩盤を包む根の根元から測ります。



川越 巨樹・古木の会 資料

秋風の田園風景・・・下小坂の大ケヤキ探訪と鯨井のヒイラギ

鯨井のヒイラギ

県道鯨井線の交通量多い位置にある八坂神社。

鳥居の奥、境内左手に薬師如来神社があり、古い歴史を持っている。県道際の一段と高くなった石囲いにヒイラギの古木が板状の幹を見せている。

根元に石碑が建ち、この地を最初に開墾移住した13家の氏名が判読しにくい字で微かに読み取れる。裏側に回ると黒々とした樹皮が見られ根元からは、葉が尖った芽出しの小枝が顔を覗かせている。4m余りと推定される幹周りが、90%余りが腐れで欠損。幅110cm、厚さで20cmになってしまっている古木。樹木の生きる力の不思議さを伝えてくれている。

古木ヒイラギの奥にある八坂神社には、松の根から彫り上げた獅子頭がご神体として祀られ、7月15日頃に天王様祭りが行われる。獅子頭が疫病退散の村廻りを行い、万作踊りも披露されている。見るべきもの多い名細地区である。

下小坂の大ケヤキ

神社横にあった竹藪が綺麗に刈り取られ、根元から幹立ちが全てが見られる。大ケヤキが2本並び立つ景色は壮観である。向かって左が赤槻、左が青槻と案内版に書かれている。巨樹が若き時代は、ケヤキは槻で表していたことを知らせている。訪ねた人たちで幹周りの測定を試みました。幹の廻りを何人かで手を握り、幹に抱きついての「手握りの輪」測定。6人が数えられた。巻き尺も無い昔は、このようにして巨樹の大きさを測っていた。我が国では、胸高（むねたか・きょうこう）の位置がここで決まり、地上1.2m太さ計測の基本とした。しかし、国際化の流れで世界ランキングが表されると、欧米の人たちの背丈は高く、胸の位置は、1.3mあり世界基準となってしまった。

今回の大ケヤキの探訪には、初めての方が多いので、巨樹計測をみんなで行った。大ケヤキの地上から1.3m計測高さを測る地点を決め計測器を使い幹にテープ印しのマークを行い、全員で計測紐を幹に押しつけて、外した紐を神社参道で地上に伸ばして、巻き尺で計測。

7.8mと幹周り計測の数値がでました。参加した皆さんは、なるほどねーとの気持ちが出た顔で納得していました。右手の大ケヤキも同じく計測7.9m幹周り数値がでました。

もう一つ。地上の土が足跡削りで根が出ている所を注目してもらい説明。両方の根が合体している。堅く握りあって生きている大ケヤキである。

7月中頃に行われる白髭神社の天王祭りには、自治会館から出発した、子獅子・親獅子の三頭が白髭神社を訪れて奉納の舞が行われる。川越市の指定文化財となり、見に来る市民も多くなり一層の賑やかさが出ています。

獅子舞と笛吹きの実習重ねで、復活を進めてきた地域の世話人、平野〇〇さんの努力が大きく実った祭りとなっている。大ケヤキの昔姿、下枝が大きく張り出し、枝に乗り、枝にぶら下がりをして遊んだ、子ども時代を覚えて頂いたのも平野さんでした。

地域の伝統・歴史を守り、語り続ける人がいてこそ、ふるさとがつながって行くことになりま

① 上戸・常楽寺のしだれ桜

五分咲きの枝垂れ桜は、人待ち顔で静かに佇んでいました。枝枯れも見せずに満開への蕾を膨らませ、そよ風に長き枝を揺らせていた。川越の五大枝垂れ桜では、一番若い樹ですが、姿が年々よくなっている。この枝垂れ桜は、本堂に向かい対になっていたもう一本の枝垂れ桜がありましたが、昭和20年代で焼失した本堂とともに火の粉を被り焼け、命を終えた。しかし、もう一本のしだれ桜は難を逃れて残り、薬師堂の横手に大きな姿になっている。西側の道路からの遠目で見ると二本の桜が一体に写り、しだれ姿を大きく見せていました。ライトアップ施設が根元に置かれ、写真撮りには邪魔になっていました。

② 榮林寺のしだれ桜

一番気になっていた、しだれ桜でした。門をくぐり姿が目に入ったときにやはり・・・の驚き姿がありました。樹冠に伸びる枝は少なく、墓地側に伸びた20cm程の太い枝は、バッサリと切り落とされていた。枝枯れの兆候が出ていた昨年の春。盛り土した根元を大きな庭石で囲い、井戸の柵囲いも置かれて数年。根元に重量をかけて通気性を閉ざした根元土。鉢植えに見立てて大きな石囲いをしていた根元飾り・・・いいのかな・・・の疑問を重ねていました。桜本体の樹勢衰えの樹姿を見て、改善の手当てを施したので、ややほっとしました。根元近くの幹肌は腐れが入っているので、回復には数年がかかると思います。川越で一番の幹回りのしだれ桜・・・寺院の庭に生き続けるのを見守りたいと思いました。

③ 喜多院・庫裏前のしだれ桜

このしだれ桜は、川越で一番早く咲き始める樹です。しだれる枝は、さほど長くない。色が、濃いさくら色を見せる樹。庫裏の前から、宝塔をバックにした樹姿が素晴らしく、私のお気に入りの景観。数年前には、根元を隠した植えこみが多くありましたが、刈込を続けて今は根元がすっきり・・・樹勢が伸びる状況になりました。

④ 中院・本堂脇のしだれ桜

川越で、人気一番のしだれ桜。中院がこの地に移転された時に植えられたしだれ桜と、伝承されて樹齢が280年とも言われている。このしだれ桜も、昨年まで幹に黒ビニールが巻かれていた。樹冠に伸びる枝が年ごとに枯れこみ、危うい樹勢になっていた。なぜ、黒ビニールで包まれていたのか。今年は幹巻きの黒ビニールは外されていた。幹に割れ目が見られ、そこに幹を下る根が降りていた。幹枯れがあり幹上部から根が出るように、土ふさぎを行いビニールで覆い、根が伸び下がる養生を行っていたのだと、今年の幹姿を見て判明しました。280年の年月を得ると、切りこみを行った枝幹から腐れが入り、樹皮を部分的に枯らしてしまう。しかし、再生への手を加えるとしだれ桜自身の力で、地上へと根を生やし生きる力を出す。植物の力強さが見られたしだれ桜でした。

⑤ 今福・明月院のしだれ桜

明見院のしだれ桜は、中院のしだれ桜から生まれた苗木を移植したとの伝承があり、樹齢が明確になっているしだれ桜でもある。本堂前に植えられ、寺院映りの良い景観を見せていましたが、この桜も枝枯れが多く出てしまい訪ねた日は、花が少なくなって咲きごろを過ぎていました。幹下から出ている若枝には、早くも緑の若葉を出していました。昨年、この桜探訪を行うにあたり、下見に訪れ寺院の方と出会う事があり、根周りに植え込まれたアジサイ、オモト等はどかしたほうがいいのですが、とお話したところ、外の駐車場に植え替えていました。本堂前に鐘楼を建てた時に桜の根を相当痛めている。樹冠に伸びる枝には、枯れこみ剪定された太い枝跡が数多く見られ、本格的な改良が必要と思いました。

平成22年度 市民環境調査

川越の樹めぐり 報告書

平成22年10月28日(木)開催

発行元 川越市環境部環境政策課

〒350-8601 川越市元町1-3-1

TEL:049-224-8811(代表)

FAX:049-225-9800

E-mail: kankyoseisaku@city.kawagoe.saitama.jp